

最初に出合うプロによって、その親子の将来は決まる

先日、地方都市で障害児・者である当事者、その親御さん、そして支援者に携わる方々との茶話会の機会を得た。

最初に「今日は本音で語り合しましょう」と呼びかけたこともあり、本音で語り合えたと思う。

日が立つにつれ茶話会の未就学児の若い母親たちの言葉、表情が浮かんでくる。

まだ子の障害を受容するとはどういうことかと戸惑っている若い母親の話は、どの親も通る初期段階の当然で自然な心境かなとは思っても、子どものためには何とかその時期を短縮させて上げられないかなと思う。

つい思い出すのは、メル友から以前にいただいた「最初に出合うプロによって、その親子の将来の生活の質が決まる。」の言葉。

このメル友の母親は長年我が子を育てている中でたくさんの後輩の母親に出会い、それぞれの親子の話から感じ取った想いの言葉であろうと思う。

確かに、初期の親の心理状態、しかも適切な情報が乏しい段階で、どういったプロに出合うかで、親子の先々の生活の過ごし方への影響を受ける。

自分も現職時代に巡回家庭訪問をしている折に、周りとの接触が乏しいと推測できる親の話をよく聴いてみると、初期段階でのプロの言葉がトラウマとなっているかなと思える数事例に出合ったことがある。

それだけに、メル友の先輩母親が「専門家は、指導や助言以上に、親の不安感を取り除いてください。親にエネルギーをいっぱい与えてください。そうすれば親子で前向きに生きていく勇気が生まれます（HP「雑学 BN」の覚え書関係（Ⅱ）、2007.07.06.「家族と係わり合う折に留意していること」：参照）。」と願うように、特に親子が最初の段階で出合うプロは、まずは寄り添い続ける覚悟のあることを親子に伝えて欲しいと思う。

先日の若いお母さんたちが、寄り添い続けてくれる、生活の基盤である地域での良きプロや良き先輩親に一日も早く出合ってくれることを願わざるにはおれない。

さて、親は障害種別に集いがちだが、今回のように相談支援センターが障害種枠を越えての呼びかけた集いは、他の障害の親子の抱える問題を互いに理解・共有する機会ともなり、その地域の福祉の基盤作りに役立つ企画でないかと思え、地域の相談支援センターとしての役割と任務の一端を気づかされた。

それだけに、企画した相談支援センターのスタッフのみなさんの勇気に敬意と感謝の意を伝えたい。